

15. 腫瘍・緩和ケア・老年学

Medical Oncology, Palliative Care, Gerontology

【1】期間 2022.7.19~2022.8.8

【2】講座の目的

腫瘍内科専門医を育成するためには、臨床腫瘍学の卒前教育を充実させることが重要である。従来の臓器別の医学教育から横断的な腫瘍学に関する教育を行い、知識を身につける必要がある。又、全人的な苦痛を理解して、痛みや症状を和らげるための知識と対応法を理解する必要がある。又、高齢化社会にむけて、加齢に伴う身体的・精神的な変化を理解し、評価し、治療に導入することが望まれる。

そこで、腫瘍・緩和ケア・老年学コースでは、実地診療に直結する内容や、社会と患者さんのかかわりを含めた実践的な教育プログラムを作成した。このコースが医学生の卒前教育のレベル向上および専門医育成に役立つことを期待している。

【3】担当教員（◎は主責任者）

コース責任者 ◎田村研治（教授，腫瘍内科/先端がん治療センター）
磯部威（教授，呼吸器・臨床腫瘍学）
中谷俊彦（教授，緩和ケア）
玉置幸久（准教授，放射線腫瘍学）

学習指導教員 門田球一（教授，器官病理学），原田守（教授，免疫学），
竹谷健（教授，小児科学），川北恵美（助教，内科学第一）
田邊一明（教授，内科学第四），
中尾美香（助教，呼吸器・化学療法内科），京哲（教授，産婦人科学），
中島和寿（助教，呼吸器・化学療法内科），
園山陽子（助教，放射線腫瘍学），池尻文良（助教，腫瘍内科），
鬼形和道（学部長，臨床遺伝子診療部），
鈴木律朗（教授，血液・腫瘍内科学），
田島義証（教授，消化器・総合外科学），
津端由佳里（診療教授，呼吸器・化学療法内科），
青井典明（准教授，耳鼻咽喉科・頭頸部外科），
森山一郎（学内講師，腫瘍内科/先端がん治療センター），
板倉正幸（診療教授，乳腺・内分泌外科），兒玉達夫（准教授，眼科），
天野芳宏（助教，呼吸器・化学療法内科），
金井理恵（嘱託講師，小児科），稲垣正俊（教授，精神医学），
和田孝一郎（教授，薬理学），直良浩司（教授，薬剤部）
八塔累子（嘱託講師，緩和ケア），井上政弥（助教，腫瘍内科），
矢野彰三（准教授，臨床検査医学），
酒井康生（講師，リハビリテーション部）

担当講座：腫瘍内科/先端がん治療センター，呼吸器・臨床腫瘍学，緩和ケア，
放射線腫瘍学，器官病理学，免疫学，小児科学，内科学第一，内科学第四，
産婦人科学，臨床遺伝子診療部，血液・腫瘍内科学，消化器・総合外科学，
耳鼻咽喉科・頭頸部外科，乳腺・内分泌外科，眼科，精神医学，薬理学，
薬剤部，臨床検査医学，リハビリテーション医学

【4】一般目標 [GIO (General Instructive Objective)]

一般目標：臨床腫瘍学・緩和ケア・老年学について理解する。

1. 臨床腫瘍学における基礎研究、病理、臨床薬理について説明できる。
2. がん化学療法、放射線治療の目的、適応、有害反応について説明できる。
3. がんの診断、検査について説明できる。
4. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。
5. 遺伝性腫瘍やがんゲノム医療について説明できる。
6. がんに対する外科治療の目的、適応、合併症について説明できる。
7. 各種がんに対する標準的化学療法の概念と適応について説明できる。
8. がん化学療法の有害反応とその対策について説明できる。
9. 緩和ケアの概念について理解する。
10. 痛みや症状を和らげるための知識とその対応法を理解する。
11. 加齢に伴う身体的変化、精神・心理的变化、高齢者に特徴的な病態を理解する。
12. 高齢者ががんに対する治療の特有性や方法を説明できる。
13. 高齢者に対するリハビリテーションの目的、適応、方法を説明できる。

【5】総合評価

学習効果を筆記試験で評価する。出席状況の評価も考慮する。
提出レポートの内容及び症例学習による評価等も考慮する。

試験は対面式で行う。

但し、本学の新型コロナウイルス感染症対応のフェーズが上がった場合はレポート課題で評価する。

【6】参考図書（◎は学生購入推薦図書，他は図書館に備えてあります）

1. 新臨床腫瘍学 改訂第6版 日本臨床腫瘍学会 南江堂 16,500円
2. 入門腫瘍内科学 改訂第3版 南江堂 3,500円
3. 放射線医学シリーズ 放射線腫瘍学第1版 金芳堂 4,800円
4. 最新緩和医療学 恒藤暁 最新医学社 3,800円
5. 高齢者のがん薬物療法ガイドライン 日本臨床腫瘍学会 日本がん治療学会
南江堂 1,980円